

翻譯學 関連書

法政大学出版局



■ 柳父章の本
翻訳語の論理
言語にみる日本文化の構造
柳父章著

ISBN 978-4-588-43606-2 C8051
四六判 | 348頁 | 定価(本体3200円+税)

《内容紹介》
『万葉集』における古代知識人の漢語翻訳の過程にわが国翻訳文化の原点を探り、福沢・二葉亭らの近代西欧との格闘の経緯を分析し、外来文化受容の特異な構造を抉る。

1972年刊行



■ 柳父章の本
文体の論理
小林秀雄の思考の構造
柳父章著

ISBN 978-4-588-43608-6 C8053
四六判 | 272頁 | 定価(本体2500円+税)

《内容紹介》
〈逆説〉と〈印象批評〉によって知られる批評家・小林秀雄を、日本の伝統的思考のすぐれた体現者とみなし、その文体を〈ことば自体〉の構造として分析・検討する。

1976年刊行



■ 柳父章の本
翻訳とはなにか
日本語と翻訳文化
柳父章著

ISBN 978-4-588-43609-3 C8052
四六判 | 226頁 | 定価(本体2800円+税)

《内容紹介》
福沢諭吉ら近代初期の思想家による西語受容過程を検討し、「意味以前のことば」として流通する翻訳語の特異性を理論化しつつ日本人にとって翻訳とは何かを問う。

1976年刊行



■ 柳父章の本
翻訳文化を考える
柳父章著

ISBN 978-4-588-43611-6 C8054
四六判 | 250頁 | 定価(本体2500円+税)

《内容紹介》
「翻訳日本語」を照射して日本文化論に新たな視角を導入した著者が、日常語から文学作品に至ることばの現場から、翻訳がもたらした特殊日本的な文化の構造を抉る。

1978年刊行



■ 柳父章の本
秘の思想
日本文化のオモテとウラ
柳父章著

ISBN 978-4-588-43605-5 C8055
四六判 | 238頁 | 定価(本体2500円+税)

《内容紹介》
有史以来の外来文化受容(翻訳)のあり方が「秘すれば花」の伝統文化を生み出し、〈秘〉の思想が今日まで日本文化の核をなしてきたとする斬新な日本翻訳文化論。

2002年刊行



■ 柳父章の本
日本語をどう書くか

柳父章著

ISBN 978-4-588-43607-9 C8056
四六判 | 222頁 | 定価(本体2500円+税)

2003年刊行

《内容紹介》

日本語は漢語や西欧語の翻訳の影響によって作られたという視点から書き言葉としての日本語の成立事情を考察し、混迷する日本語表現に明快な指針を示す文章読本。



■ 柳父章の本
近代日本語の思想

翻訳文体成立事情

柳父章著

ISBN 978-4-588-43617-8 C8057
四六判 | 252頁 | 定価(本体2900円+税)

2004年刊行

《内容紹介》

日本語の文体は近代以後、翻訳によってつくられた——大日本帝国憲法に象徴される翻訳悪文の系譜を分析して日本語文の欠陥を摘発し、日本の思想の問題点を抉る。



■ 柳父章の本
未知との出会い

翻訳文化論再説

柳父章著

ISBN 978-4-588-43612-3 C8057
四六判 | 270頁 | 定価(本体2600円+税)

2013年刊行

《内容紹介》

未知の言葉や出来事は、最初の「出会い」のあとで、どのように既知のものへと「翻訳」されるのか。柳父翻訳文化論のエッセンスにして入門書。著者インタビュー付。



■ **日本の翻訳論**
アンソロジーと解題

柳父章, 水野的, 長沼美香子編

ISBN 978-4-588-43616-1 C8099
A5判 | 350頁 | 定価(本体3300円+税)

2010年刊行

《内容紹介》

近代日本の翻訳論の歴史を、明治から昭和期にかけての代表的テキスト群と、現代の翻訳研究者による解題を通じて総合的に批評する初の試み。翻訳研究の必読文献。



■ **訳された近代**
文部省『百科全書』の翻訳学

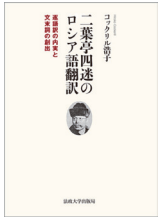
長沼美香子著

ISBN 978-4-588-44505-7 C
A5判 | 438頁 | 定価(本体5800円+税)

2017年刊行

《内容紹介》

明治初期に文部省主導で進められ、最先端の西洋文明を紹介した全97編の『百科全書』翻訳・出版事業は、近代日本の学知に何をもたらしたのか。初の翻訳学の研究。

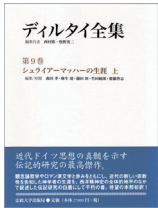


■ **二葉亭四迷のロシア語翻訳**
 逐語訳の内実と文末詞の創出
 コックリル浩子著

ISBN 978-4-588-47005-9 C8099
 A5判 | 374頁 | 定価(本体5400円+税)

《内容紹介》
 ロシア文学の翻訳を通じて近代日本語文学・文章表現に革新をもたらした作家の貢献を、文末詞や三人称文体の変遷、後世への影響に注目して分析した力作翻訳研究。

2015年刊行



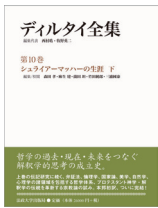
■ **ディルタイ全集 第9巻**
シュライアーマッハーの生涯 上

ディルタイ著/森田孝, 麻生建, 藺田坦,
 竹田純郎, 齋藤智志編集・校閲

ISBN 978-4-588-12109-8 C1040
 A5判 | 1300頁 | 定価(本体27000円+税)

《内容紹介》
 観念論哲学やロマン派文学と歩みをとみにし、近代の新しい宗教性を告知した神学者の生涯を、西洋精神史の全体的地平のなかで叙述した伝記研究の白眉。本邦初訳。

2014年刊行



■ **ディルタイ全集 第10巻**
シュライアーマッハーの生涯 下

ディルタイ著/森田孝, 麻生建, 藺田坦,
 竹田純郎, 三浦國泰編集・校閲

ISBN 978-4-588-12110-4 C1040
 A5判 | 1264頁 | 定価(本体26000円+税)

《内容紹介》
 上巻の伝記研究に続く本巻では、第一部で哲学体系の全体が、第二部では神学へのアプローチが、第三部では解釈学的思考の核心が叙述される。浩瀚なる代表作の全訳。

2016年刊行



■ **叢書・ユニベルシタス**
バベルの後に 上
 言葉と翻訳の諸相
 G. スタイナー著/亀山健吉訳

ISBN 978-4-588-00399-8 C1010
 四六判 | 482頁 | 定価(本体5000円+税)

《内容紹介》
 翻訳や解釈の概念を明らかにするとともに、哲学的な問題意識、文学的な感受性、技術的な言語学の三者を統合させて言語そのものの本質を解明する壮大な試み。

1999年刊行



■ **叢書・ユニベルシタス**
バベルの後に 下
 言葉と翻訳の諸相
 G. スタイナー著/亀山健吉訳

ISBN 978-4-588-00400-1 C1010
 四六判 | 550頁 | 定価(本体6000円+税)

《内容紹介》
 古今の文学理論・言語思想に通暁した現代随一の批評家が、言葉の複数性、意味の伝達(不)可能性という巨大な謎に取り組んだ、翻訳研究の古典的達成。上下巻完結。

2009年刊行



■ 叢書・ユニベルシタス
言語芸術・言語記号・言語の時間

R. ヤコブソン著/浅川順子訳

ISBN 978-4-588-09964-9 C1010
四六判 | 388頁 | 定価(本体4000円+税)

1995年刊行

《内容紹介》

20世紀の〈人文科学〉を形成した独創的な思想家の一人として、革新的な言語科学の探究者・文学研究者・記号学者としての多様な側面と思考の核を示す論考を集成。



■ 叢書・ユニベルシタス
翻訳

〈ヘルメスIII〉

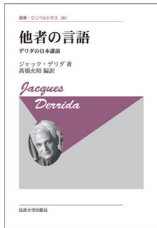
M. セール著/豊田彰, 輪田裕訳

ISBN 978-4-588-00311-0 C1010
四六判 | 404頁 | 定価(本体3500円+税)

1990年刊行

《内容紹介》

核兵器に象徴される科学と権力の問題、都市と農村の問題、絵画と知との関係など、現代の諸問題への関心を自在に表明し、地球環境論への巨視的アプローチを試みる。



■ 叢書・ユニベルシタス
他者の言語

デリダの日本講演

J. デリダ著/高橋允昭編訳

ISBN 978-4-588-09938-0 C1010
四六判 | 404頁 | 定価(本体4700円+税)

1989年刊行

《内容紹介》

70年後半から80年前半の論考と来日記念講演。標題のエッセイほか「バベルの塔」「時間を——与える」「大学の瞳」「哲学を教えること」「私の立場」の6篇を収録。



■ 叢書・ユニベルシタス
翻訳そして/あるいはパフォーマンス

脱構築をめぐる対話

J. デリダ著/豊崎光一著訳/守中高明監修

ISBN 978-4-588-01048-4 C1010
四六判 | 182頁 | 定価(本体2000円+税)

2016年刊行

《内容紹介》

デリダが最も信頼する相手と講義や講演にもない率直な語り口で、自身の来歴から哲学の諸問題までを語り合う。現代の知の核心をめぐる対話。世界初の書籍化。



■ 叢書・ユニベルシタス
翻訳の時代

ベンヤミン『翻訳者の使命』注解

A. ベルマン著/岸正樹訳

ISBN 978-4-588-01003-3 C1010
四六判 | 318頁 | 定価(本体3500円+税)

2013年刊行

《内容紹介》

翻訳研究の第一人者が、20世紀の翻訳論の「中心テキスト」を詳細に読み解く。国際哲学コレージュでの未刊の講義ノートを初集成した、現代翻訳思想への入門。



■ 叢書・ユニベルシタス

象徴の理論

T. トドロフ著/及川 観, 一之瀬正興訳

ISBN 978-4-588-09936-6 C1010
四六判 | 536頁 | 定価(本体5300円+税)

《内容紹介》

アリストテレスから今日に至る西欧の記号学の伝統を発掘・再検討し、様々な領域で個々に展開されてきた〈象徴体系論〉の成果を記号論の立場から統一的に捉え直す。

1987年刊行



■ 叢書・ユニベルシタス

言葉の暴力

「よけいなもの」の言語学

J.-J. ルセルクル著/岸正樹訳

ISBN 978-4-588-00893-1 C1010
四六判 | 466頁 | 定価(本体5200円+税)

《内容紹介》

「あるがまま」の言葉の分析を通して言葉の他者性を考察し、「ラング」の自律性を唱えるソシュール言語学に対して非自律的な〈よけいなもの〉の言語学を提唱する。

2008年刊行



■ 叢書・ユニベルシタス

シンボルの理論

N. エリアス著/大平章訳

ISBN 978-4-588-01053-8 C1010
四六判 | 350頁 | 定価(本体4200円+税)

《内容紹介》

『文明化の過程』で示された長期的相互依存の連鎖モデルを敷衍し言語・知識・文化に関する総合的理論を構築するとともに知識社会学の刷新を試みた最晩年の重要作。

2017年刊行



■ 叢書・ユニベルシタス

基本の色彩語

普遍性と進化について

B. バーリン, P. ケイ著/日高杏子訳

ISBN 978-4-588-01041-5 C1010
四六判 | 284頁 | 定価(本体3500円+税)

《内容紹介》

言語相対説に異を唱え、人間が言語を超えて焦点色の観念と色彩カテゴリーを共有していること、色彩語には共通の進化パターンが存在することを論証した画期的研究。

2016年刊行



■ 叢書・ユニベルシタス

文化の場所

ポストコロニアリズムの位相

H.K. バーバ著/本橋哲也, 正木恒夫, 外岡尚美, 阪元留美訳

ISBN 978-4-588-09959-5 C1010
四六判 | 490頁 | 定価(本体5300円+税)

《内容紹介》

周縁化された〈他者〉や、抑圧されたマイノリティの声を歴史からすくいとる作業としてのポストコロニアリズムに必須の戦略と指針を示すバーバの著書。待望の完訳。

2005年刊行



■ サビエンティア
文化のハイブリディティ

P. パーク著/河野真太郎訳

ISBN 978-4-588-60326-6 C3620
四六判 | 182頁 | 定価(本体2400円+税)

2012年刊行

《内容紹介》

ヒト・モノ・情報, さらには宗教・文学・音楽・芸術などの交流にともなう文化の遭遇, 接触, 交差, 異種混濁性のプロセスを, 歴史的かつ理論的な視野から論じる。



■ サビエンティア
土着語の政治

ナショナリズム・多文化主義・シティズンシップ

W. キムリッカ著/
岡崎晴輝, 施光恒, 竹島博之監訳

ISBN 978-4-588-60328-0 C3620
A5判 | 554頁 | 定価(本体5200円+税)

2012年刊行

《内容紹介》

国家によるネイション形成で同化・排除されるマイノリティの権利を, リベラリズムの立場から擁護する。彼らの言語や文化を, 個人の自律的選択の基盤とみなす。



■ サビエンティア
支配と抵抗の映像文化

西洋中心主義と他者を考える

エラ・ジョハット, ロバート・スタム著/
早尾貴紀監訳

ISBN 978-4-588-60357-0 C1336
A5判 | 544頁 | 定価(本体5900円+税)

2019年刊行

《内容紹介》

ハリウッド映画の人種主義・植民地主義的な文化表象を指摘しながら, 第三世界の映画やラップビデオ, 先住民族が制作する番組など非西洋メディアの可能性を探る。



■
閩の思考

他者・外部性・故郷

磯前順一著

ISBN 978-4-588-15067-8 C1099
A5判 | 564頁 | 定価(本体6600円+税)

2013年刊行

《内容紹介》

「自分の居場所がない」。ポストコロニアル思想はそこに一つの道を示す。震災以降, 他者を排除せず, 「戸惑い」と「受苦」を絆とする共同性の創出を構想する。



■ サビエンティア
共生への道と核心現場

実践課題としての東アジア

白永瑞著/趙慶喜監訳/中島隆博解説

ISBN 978-4-588-60346-4 C3620
四六判 | 432頁 | 定価(本体4400円+税)

2016年刊行

《内容紹介》

沖縄, 朝鮮半島, 台湾など歴史的矛盾が凝縮された分断の場で人々が構造的差別に苦しむ核心現場から, 相互憎悪を超えて, 和解と共生を導く実践的な道を提示する。



■ **東アジアのカント哲学**
日韓中台における影響作用史
牧野英二編

ISBN 978-4-588-15072-2 C1099
A5判 | 262頁 | 定価(本体4500円+税)

《内容紹介》
東アジアの知識人は、植民地統治と戦争の歴史のなかでカントをどのように受容してきたか。その学問的・政治的文脈を各国の研究者らが跡づける国際共同研究の成果。

2015年刊行



■ **表象のアリス**
テキストと図像に見る日本とイギリス
千森幹子著

ISBN 978-4-588-49509-0 C8099
A5判 | 462頁 | 定価(本体5800円+税)

《内容紹介》
第39回日本児童文学学会特別賞受賞挿絵画家や翻訳者たちが描いてきた多様な少女像を、アリス図像研究の第一人者が初めて詳細に比較分析した労作。図版多数。

2015年刊行



■ **オリエンタリズムとジェンダー**
「蝶々夫人」の系譜
小川さくえ著

ISBN 978-4-588-67207-1 C3698
四六判 | 206頁 | 定価(本体2200円+税)

《内容紹介》
ロティ『お菊さん』からロング、ベラスコ、プッチーニの『蝶々夫人』、ウォン『M・バタフライ』まで、六つの作品を通してジェンダーの本質と模倣の構造に迫る。

2007年刊行/品切れ



■ **虚像のアテネ**
ベルリン、東京、ソウルの記憶と空間
全鎮晟著/佐藤静香訳

ISBN 978-4-588-78611-2 C3020
A5判 | 566頁 | 定価(本体8800円+税)

《内容紹介》
プロイセンの建築家フリードリヒ・シンケルの新古典主義建築が、三つの都市に導入される過程をテーマに、幻影としての西欧的近代性と、その脆さを逆追跡する試み。

2019年刊行



■ **コミュニケーション能力増補新版**
外国語教育の理論と実践
S. サヴィニョン著/
草野ハベル清子, 佐藤一嘉, 田中春美訳

ISBN 978-4-588-68607-8 C3799
A5判 | 370頁 | 定価(本体4300円+税)

《内容紹介》
文法中心の学習からコミュニケーション重視の授業へ。外国語教育実践を社会的文脈のなかで捉え、現場の教師たちに有効な授業ノウハウを示す定番の語学教育理論書。

2016年刊行